



# こどもまんなか・県民会議

～第12号～

## 報告

### こどもの安全について考える ～「見守る目」と「自分を守る」～

子どもや女性への付きまとい、声かけ事案は令和5年には190件に達し、補導された不良行為少年（飲酒、喫煙、深夜徘徊等）はここ数年増加傾向にあります。社会情勢やネット環境が変化していく中、子ども・青少年が犯罪・トラブルに巻き込まれることがないように、関係業界の取組や地域で子どもたちを「見守る目」を強化するとともに、子ども自身が「自分を守る」意識を高める必要があります。

#### 業界の取り組み

佐賀県たばこ販売協同組合や佐賀県小売酒販組合連合会では、関係企業・団体やメーカー、行政等と連携して、未成年の喫煙・飲酒禁止の啓発活動、販売教育等に取り組んでいるほか、**佐賀県カラオケスタジオ防犯協会**（以下「協会」という。）では、カラオケ店で20歳未満の者に喫煙、飲酒、薬物等を使用させないよう「自主規制基準」を設け、利用時間の制限や店内巡回、補導活動への協力等を定めています。**佐賀県高等学校生徒指導連盟**は、協会と協議のうえ基準を遵守する店舗を「カラオケスタジオ高校生入場許可店」（店頭に幟旗を掲示）に認定し、高校生が安心してカラオケを楽しめる環境づくりに取り組んでいます。



入場許可店幟旗

#### 地域で見守る



街頭補導の様子

少年補導員は、非行少年等の早期発見・補導活動などに従事し、各地域における少年の非行防止と健全育成活動を担っています。また、青色回転灯装備車両（通称「青パト」）等による自主防犯パトロールや登下校時の交通立ち番、「こども110番の家」など、住民がボランティアで地元の子どもたちを見守り、育てる活動も増えています。

こうした活動には参加しなくても、日常生活の中に「防犯」の視点を取り入れ、周囲への目配り、子どもたちの見守りなどを行う「ながら防犯」なら誰でも参加できる活動です。「自宅にいながら」「仕事をしながら」、意識して子どもたちを見守る住民が増えれば、それだけ地域の防犯力は強化されるでしょう。

※右は、市民総参加で子どもを育むことを目指す

「子どもへのまなざし運動」シンボルマーク（佐賀市）



#### 自分を守る意識を

情報モラル講座の講師を長年務める IT サポートさかの陣内理事長は、SNS 等の最新の情勢について説明しながら、子どもたちに「自分の身は自分で守れ」と繰り返し説いています。

また、今年の少年の主張佐賀県大会で、油断して包丁で指を切った経験から、ようやく買ってもらったスマホの利用を躊躇する心情を語った発表がありました。便利さの裏にはリスクがあることに思い至り、周りの友達にただ同調するのではなく「包丁を使い始めた頃の緊張感を忘れないようにしたい」と結んでいます。

新栄小学校 PTA（佐賀市、前田淳一会長）は、「志 taiken」支援事業を活用して「校区内の危険箇所マップ作成プロジェクト」（右写真）に挑みました。子どもたちがゲームソフトで地域の街を再現、ゲームを通して危険な場所を確認しました。「子どもたちが地域の安全を考える姿に成長を感じた」など主体的に学ぶ姿勢がみられたとのこと。IT を介して子どもたちが自ら「危険」を探知する試みです。

これからも子どもたちの周りには様々な「危険」が忍び寄ってきます。子ども自身が自分を守る意識を高められるよう、各地域での取り組みが期待されます。



ゲームソフトによる街の再現



「危険箇所」をマッピング

長年にわたり佐賀県の青少年の育成に尽くしていただきました

～令和6年度青少年育成県民会議「顕彰」受賞の皆さん～



スポーツを通じた交流を

中村 直人さん（鳥栖市）

20年以上にわたり「鳥栖JBBCスポーツ少年団」の監督として少年野球の指導に携わり、多忙な仕事との折り合いをつけながら、今も週5日、子どもたちとともにグラウンドに立つ。「心の弱い子に育ててほしくない」「スポーツを通じて、我慢することを学んでほしい」「いろいろな人たちと交流し仲間づくりの経験を積んでほしい」との指導理念を持つ。

また、会長を務める「フィッ鳥栖」では、小学校低学年を対象に「育成部」を設け、遊びの延長でスポーツに親しめるようなサークルを用意している。敷居を低くし、子どもたちにスポーツ本来の楽しさを味わってほしいという思いが伺える。

中村さんは「もっと地域が子どもを見守り育てる土壌ができないものか」と考え、高齢者や地域の人々と「交流」できるような仕掛けを模索している。

これからもスポーツを通して、人づくり、仲間づくり、地域づくりに身を投じていく。



少年野球の様子



「人間力」を育む

水田 誠さん（鳥栖市）

20年以上小学生にバレーボールを教えている。毎年メンバーが入れ替わる中、県大会での優勝8回などの成績を上げてきた。

練習は週5日。試合にはできるだけ多くの選手を出場させ、経験を積ませることを重視する。「ジュニアクラブはスポーツに取り組む基本姿勢を身に付け、中学、高校へ送り出すのが役目」だという。練習で不真面目な態度を取る子どもには、はじめにコツコツ頑張る大切さを説き、徐々に意識を変えていく。そうして育まれる「人間力」こそ、子どもには大事な体験だということだろう。

現在、メンバーは16名。一人一人の状況把握は指導するうえで欠かせない。共働きも増えており、家庭環境に応じたコミュニケーションの取り方にも工夫が必要ようだ。

長年、試行錯誤しながらアップデートしてきた指導法を駆使し、60歳までは子どもたちの「人間力」の向上に寄与していくつもりだ。



円陣を組む  
(中央が水田さん)

「田んぼの学校」で地域のありようを取り戻す  
ちゃりんこクラブ（武雄市）

『ちゃりんこクラブ』は、武雄市橘町の有志が集まり、子どもの時に自転車で町内を遊びまわった頃のつながりやコミュニケーションのありようを取り戻したいと立ち上げた町おこしグループ。

地域住民が集まりやすいイベント、ソフトボール大会、敬老会では花をプレゼント、幼稚園児にはクリスマスプレゼントを贈るなど、地域の老若男女の笑顔があふれる多彩な取組を展開してきた。

中でも、「田んぼの学校」は、橘小学校に地元の方々が協力し、稲作を通して子どもたちの「学びの場」を作り上げてきた。春のもみ撒きに始まり、代かき、田植え、稲刈り、餅つき、しめ縄づくりまでを体験するほか、田んぼや川に生息する生き物を知り、地元への関心、愛着を深めていく。

こうした取組は、橘町のホームページにアップされ、地元の知的ノウハウとして蓄積されていく。

「田んぼの学校」は、「子ども」を「まんなか」に、地域のつながりやコミュニケーションを復興させる営みだ。

誰もが子どもだった頃の地域の良さ、温かみを思い出し、それを子どもたちに伝えていく。未来につながるまちづくりの姿だと思う。



稲刈りを体験する子どもたち



「在熊佐賀県人会」さまから御寄附をいただきました

平成30年度まで賛助会員として御協力いただいていた「在熊佐賀県人会」が熊本大地震の影響や会員の高齢化等から解散されることとなり、その残余財産を全額（111,514円）当県民会議へ御寄附いただきました。

在熊佐賀県人会の皆様の御厚情に報いられるよう、子どもの育成支援に一層尽力してまいります。



本紙では、皆様から寄せられた子ども・若者育成支援に関する情報をもとに発行してまいります。郵送、FAX 又はメールにて情報を御提供ください。

佐賀県青少年育成県民会議事務局

〒840-8570 佐賀市城内一丁目1番59号 佐賀県子ども未来課内

☎: 0952(25)7350 FAX: 0952(25)7339 E-Mail: kenminkaigi-saga@b2.bunbun.ne.jp



県民会議ホームページ  
QRコード